

日本ロマンス語学会 第51回大会報告

東京外国語大学大学院
博士後期課程
山田怜央

概要

日本ロマンス語学会 第51回大会

日時: 2013年5月18日(土)・19日(日)

於: 名古屋大学東山キャンパス

概要

5月18日(土)

統一テーマ: **ロマンス諸語における助動詞**

発表数: **6**

5月19日(日)

自由テーマ

発表数: **4**

概要

5月18日(土):統一テーマ

- ①ブラジル・ポルトガル語のアスペクト・テンス体系
—日本人研究者及び学習者のための解説—
- ②第二言語ポルトガル語学習者によるモダリティ形態素習得
- ③義務と反実性: スペイン語 tener que と deber を巡って
- ④フランス語における複合過去と半過去の使い分け
—語彙アスペクトを用いた分類—
- ⑤ロマンシュ語スルシルヴァン方言の助動詞の選択性
- ⑥イタリア語における過去を表す時制について
—近過去・遠過去・現在形—

概要

5月19日(日): 自由テーマ

- ① 古サルデーニャ語におけるクリティックの出現位置についての基礎的考察
- ③ スペイン語の自他両用動詞について
- ④ レオン地方で発行された文書の作成年代推定
- ⑤ ブラジルポルトガル語におけるWh移動と空主語について

※発表②は発表者欠席のため中止

統一テーマ⑤

ロマンシュ語スルシルヴァン方言の助動詞の選
択性

京都大学大学院

坂口 友弥

統一テーマ⑤

ロマンシュ語スルシルヴァン方言における
助動詞の使い分け

esser(be)

haver(have)

※ロマンス語学における助動詞

複合時制(過去or完了)を形成するのに用いる

フランス語、イタリア語、ロマンシュ語

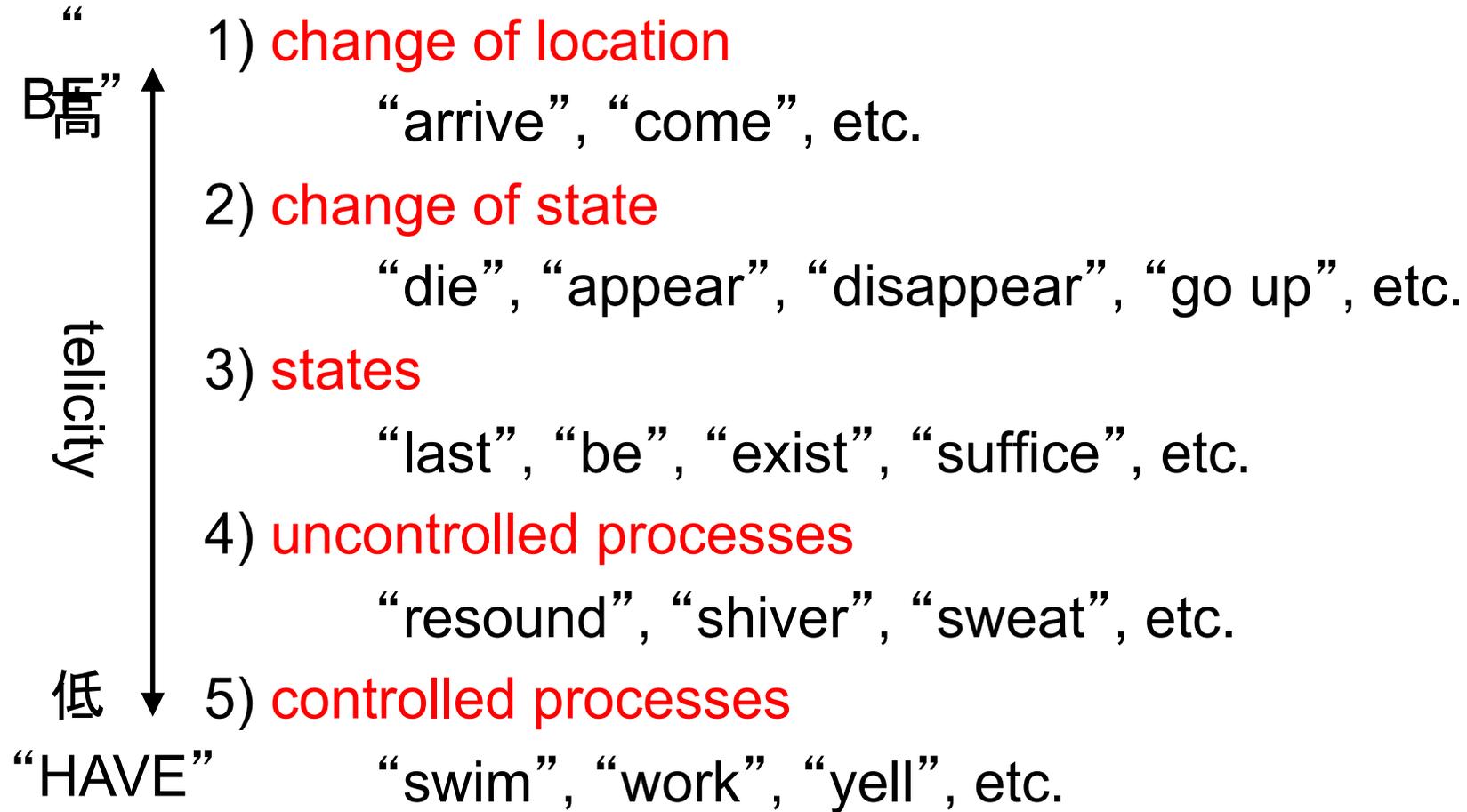
およびゲルマン語派のドイツ語、アイスランド語、デンマーク語などで同様の使い分けが見られる

統一テーマ⑤

先行研究 Sorace(2000)

- ・ **thematic** / **aspectual**が基準
- ・ BEを取るものは**telic**の特性が強い動詞
- ・ HAVEを取るものは**atelic**の特性が強い動詞
- ・ **atelic**の動詞の場合は**volitionality**に影響を受ける

統一テーマ⑤



統一テーマ⑤

2) **change of state**

プロセスを示す predicate に影響を受けやすい
(e.g. for three months)

3) **states**

agentivity に影響を受けやすい

4) **uncontrolled processes**

主語の animacy に影響を受けやすい

5) **controlled processes**

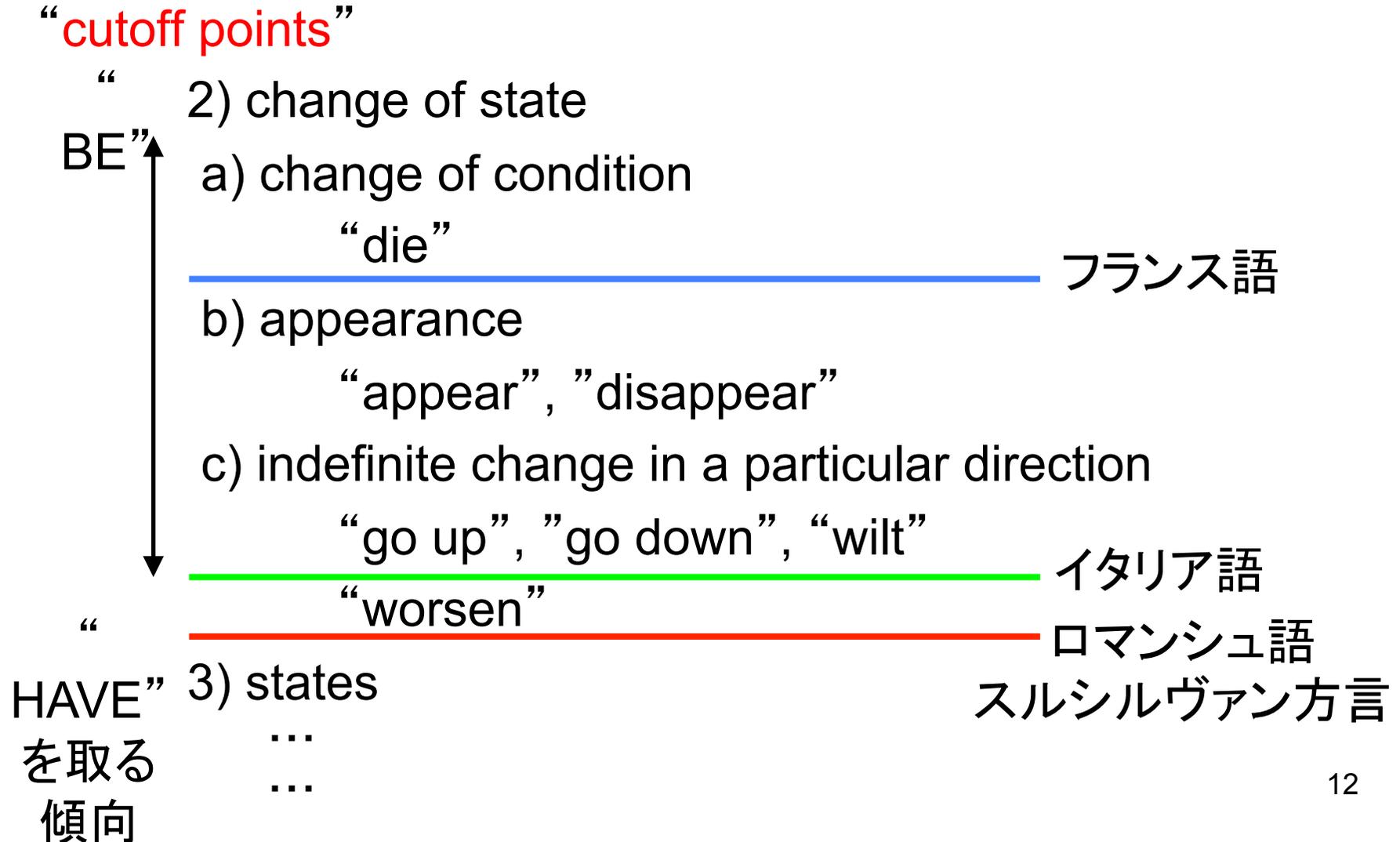
時間を規定する predicate に影響を受けやすい
(e.g. in a year)

統一テーマ⑤

→地方紙La Quotidianaを用いて調査

フランス語、イタリア語と助動詞の分布が異なるか？

統一テーマ⑤



統一テーマ⑤

まとめ

- ・ロマンシュ語スルシルヴァン方言では、フランス語やイタリア語の **cutoff points** より低い
- ・イタリア語とは多くの部分で共通しているが、**star**(be), **resunar**(resound), **senudar**(swim)の3つで異なる
- ・**predicate**の影響による助動詞の交替は**resunar**(resound)以外に見られなかった
 - BEなら**telic**
 - HAVEなら**atelic**

統一テーマ⑤

質疑応答

Q. “resound”はイタリア語とロマンシュ語で異なるのか？

A. イタリア語の方はあまり見ていない。

Q. 再帰動詞についての調査は行ったのか？

A. 行ったが、複雑だったのでまだまとめられていない。

Q. “食べる”はBEと結びつくか？(古いスペイン語にはある)

A. HAVEのみ。

統一テーマ⑤

Q. イタリア語では、“泳ぐ”は「～まで」があればBE？
ロマンシュ語ではどうか？

A. たまたまコーパスに出なかっただけではないか。
(ネイティブの意見)

A. イタリア語: **correre** “走る”

sono corso～[BE] 頑張っ間に合うように走る

ho corso～[HAVE] ただの走ったという出来事

統一テーマ⑤

その他発表者のコメント

・他のロマンス諸語よりもcutoff pointsが低いのはドイツ語の影響が考えられる。ただし、研究によってばらばら。

統一テーマ⑥

イタリア語における過去を表す時制について
—近過去・遠過去・現在形—

北海道大学大学院

Cespa Marianna

統一テーマ⑥

イタリア語における、

直説法**現在・近過去・遠過去**の3形式を扱う

→近過去と遠過去の使い分けは、伝統的には話者による選択

「彼は神曲を**読んだ**」

(1) Lui **lesse** la Divina Commedia.(遠過去)

→事象が過去の一時点である[**アオリスト的アспект**]

(2) Lui **ha letto** la Divina Commedia.(近過去)

→事象の効果が現在まで持続する[**完了的アспект**]

この置き換えが可能かどうかを見る

統一テーマ⑥

アオリスト(終了)／完了の相違

「安堵するために、自分の息子を失ったお母さんのことを考えるようにした」

(3) Per consolarmi, cercai di pensare ad una madre che **perse** il proprio figlio.(遠過去)→終了

(4) Per consolarmi, cercai di pensare ad una madre che **ha perso** il proprio figlio.(近過去)→完了

統一テーマ⑥

アオリスト(終了)／完了の相違

(3) 遠過去[終了]

→息子を失ったお母さんが確認のできる人であるため、その事象が過去においてすでに行われた事象である

(4) 近過去[完了]

→息子を失ったお母さんが架空のお母さんであるため、その事象の時間的な位置づけが不明である

近過去と遠過去の使い分けが話者による選択であり、いつでも置き換えが可能であるというのは不適切

統一テーマ⑥

アオリスト(終了)／完了の相違

近過去

- (a) 完了的アспект
- (b) 時間的な位置づけの
自由さ
- (c) 過程の完了の不定さ

遠過去

- (a) アオリスト的アспект
- (b) 時間的な位置づけの
確定さ
- (c) 時間的な設定の確定さ

↓

アオリスト化 ⇒ 近過去の二重性
(Aoristicizzazione)

統一テーマ⑥

主節における過去時制について(時制の一致)

「君は出発したと私は彼に言った」

(5) Gli **dissi** / **ho detto** che **partivi**. (近／遠過去—半過去)

(6) *Gli **dissi** che **parti**. (遠過去—現在)

→不可

(7) Gli **ho detto** che **parti**. (近過去—現在)

→可 主節の近過去は現在と切り離されていない

現在形と同じ扱い

統一テーマ⑥

近過去と現在形の相関関係

- (8) Ieri **sono andato** al cinema.(近過去) > 単文
- (9) *Ieri **vado** al cinema.(現在) > 単文
- (10) Ieri **vado** al cinema e chi ci **trovo**?(現在) > 物語化

近過去→単なる過去における出来事

現在 →話者の視点が過去に置かれる(物語化)

統一テーマ⑥

Q. (3)、(4)はもっと短い文章の方が分かりやすかったのではないか？

「私は彼を見なかった」

non lo **vidi** più (遠過去)

non l' **ho visto** più (近過去)

のようなものでよかったのでは？

A. 時制だけでなく、ここでは**不定冠詞(una)**も重要である。

統一テーマ⑥

Q. (4)の例は**完了**か？

A. 意味としては(3)が**現実**、(4)が**架空**になる。

Q. ならば(4)の例に**接続法**は使えるか？(他のロマンス語では非現実を表すのに接続法が用いられる)

A. イタリア語では**直説法**のみ。

自由テーマ①

古サルデーニャ語におけるクリティックの出現
位置についての基礎的考察

滋賀短期大学

金澤 雄介

自由テーマ①

Tobler-Mussafiaの法則(以下TMの法則)

古サルデーニャ語を含む古ロマンス諸語におけるクリティックは、文頭に現れることができず、文の第2位置に現れ、先行するアクセントのある語にencliticとして現れる

→しかし古サルデーニャ語ではこの法則では説明の付かない位置にクリティックが現れることがある

自由テーマ①

補語人称代名詞

	sg.		pl.
	dat.	acc.	
1st.	mi, me	me	nos
2nd.	ti, te	ti, te	vos, vos, uos
3rd.	li	(m.) llu, lu	(dat.) lis
		(f.) lla, la	(acc.m.) los (f.) las

副詞的代名詞

inde, 'nde / ince, 'nce / ibi, ivi, iui, bi, vi, ui

自由テーマ①

(11) et a lLukia deitila a sSimione de Cuniatu.

「そしてLukiaについては彼がS. de C.に与えた」

TMの法則では説明が付かない

(法則に従えばa lLukiaの後ろが予想される)

→**統語構造**および**情報構造**(トピックとフォーカス)

自由テーマ①

主節における構造

[TopP] [FocP] [C⁰ / FinP]

クリティック出現位置の規則(Benincà 2006)

FocPに構成要素があれば、クリティックは定動詞の前

Top = a lLukia、FocP=ゼロ

→クリティックは定動詞の後ろ(11)

この規則によって説明できる

自由テーマ①

(12) **Bos** notificamus cum sas presentes qualmente...

「我々はあなたたちに、立会い人と共に平等に通告する」

ここではクリティックが定動詞の前に現れている

→これまでの規則では説明ができない

→**現代サルデーニャ語**と同様の位置(他の現代ロマンス語とも同じ)

自由テーマ①

クリティック出現位置の変化

古ロマンス諸語(およびラテン語)のクリティックは本来、**enclitic**としての性質を持っていた(Salvi 2011)

またクリティックは文の第1要素の直後に置かれ、**enclitic**として付加される

ここではクリティックを以下の2つに分けている

preverbal proclitic

(12) **sinde** kertat alikis... (if someone litigates)

preverbal enclitic

(13) **m'**indulsit... (he gave me)

自由テーマ①

クリティック出現位置の変化

a) 定動詞が第2位→第1要素をホストとするクリティックは**動詞**
の直前に置かれる

↓

b) クリティックは動詞をホストとする性質へと変わる
preverbal encliticは**preverbal proclitic**へ

↓

c) **preverbal proclitic**が一般化
絶対語頭にも現れるようになった

自由テーマ①

聴衆からのコメント

- ・クリティックの出現位置の変化の項について、**ラテン語**の代名詞はクリティックではない。
- ・**現代ガリシア語**に似ている。
- ・他の**ロマンス諸語**と同じ、というのは正確でない。

総括

司会の方からのコメント

助動詞で盛り上がるかと思ったら、

自他動詞の問題など統一テーマ以外のことで盛り上がっていた

次回大会は、

2014年5月ごろ

京都外国語大学にて

統一テーマは「ロマンス諸語における語順」